

## 佳作

あいさつをしてえがおいっぱい

にかほ市立平沢小学校

一年 森<sup>もり</sup> 英斗<sup>ひでと</sup>

ぼくたちが、あたりまえのようにやっている、それがあいさつです。あたりまえだけどかせないあいさつが、もしなければあまりうれしいきもちにはなれません。

あいさつをすると、げんきになります。そして、ともだちがふえます。学校にきて、ともだちや先生がたにあいさつするとえがおになります。ちいきの人ともなかよくなったきがします。あいさつは、ここるところのかけはしだなおもいます。だから、あいさつをあまりやるきにならないときは、ともだちやかぞくの人とおでかけやさんぽをするときにあいさつきょうそうをしてみませんか。そうすれば、すこしははやくあいさつがしたいとおもうでしょう。

ぼくには、一さいのいもうとがいます。ぼくが、「おはよう。」や「こんばんは。」というあいさつをおし

えたら、いもうとは、あさおきるとじぶんから「おはよう。」というようになりました。よるは「こんばんは。」とあいさつしてくれてかわいいです。ぼくのもだちのいえにいったときには、げんかんのところでも「こんにちは。」といっていたそうです。だから、ちいさいあかちゃんでも、かんたんにおぼえることができるのです。ちいきのみなさんも、ぜひお子さんにあいさつをおぼえさせてみてください。

ぼくは、あいさつをすると、それがみらいにつたわって、たくさんの人がうれしいきもちになるとおもいます。一人一人がじぶんの子どもにあいさつをおしえると、みらいにつたわって、あいさつがずつつづいていくし、せかいが「げんき・やるき」などであふれていくとおもいます。そういうちきゅうになると、みんながなかよくなって、しあわせなせかいになるでしょう。だから、ぼくはじぶんのためだけでなく、たくさんの人たちのために、まい日げんきいっぱいあいさつをしてえがおでせいかつできるようにしていきたいとおもっています。